

平成29年生駒市教育委員会第7回定例会会議録

1 日 時 平成29年7月24日(月) 午前9時32分～午前10時50分

2 場 所 生駒市役所401・402会議室

3 審査事項

- (1) 報告第12号 平成29年度学校訪問(小学校)の結果について
- (2) 議案第17号 平成29年度生駒市教育委員会の活動の点検及び評価について

4 出席委員

教育長 中 田 好 昭

委員(教育長職務代理者)	山 本 吉 延	委員	飯 島 敏 文
委員	上 田 信 行	委員	寺 田 詩 子
委員	神 澤 創	委員	浦 林 直 子
委員	坪 井 美 佐	委員	レイノルズあい

5 事務局職員出席者

教育振興部長	峯 島 妙	生涯学習部長	西 野 敦
教育振興部次長	真 銅 宏	教育総務課長	辻 中 伸 弘
教育指導課長	吉 川 祐 一	こども課長	前 川 好 啓
こども課指導主事	樋 田 良 恵	こども課指導主事	上 田 直 美
子育て支援総合センター所長	辻 本 多佳子	生涯学習課長	清 水 紀 子
図書館長	向 田 真理子	スポーツ振興課長	吉 岡 秀 高
教育総務課課長補佐	山 本 英 樹	教育指導課課長補佐	城 野 聖 一
こども課課長補佐	松 田 悟	生涯学習課課長補佐	梅 谷 信 行
スポーツ振興課課長補佐	西 政 仁	教育総務課(書記)	牧 井 望
教育総務課(書記)	鬼 頭 永 実		

6 傍聴者 なし

午前9時32分 開会

○開会宣告

○日程第1 前回会議録の承認

○日程第2 会期・会議時間の決定

○日程第3 諸般報告

- ・8月の行事予定について、辻中教育総務課長、清水生涯学習課長から報告
(質疑) なし

○日程第4 報告第12号 平成29年度学校訪問(小学校)の結果について

- ・平成29年度学校訪問(小学校)の結果について、吉川教育指導課長から報告
<参照:議案書p1~6、資料1>

(質疑)

飯島委員:ICT教育について、現状ではデジタル黒板の導入は難しいと思うが、昨年度と比較して、今年度の学校訪問では、プロジェクタ・スクリーンが多く使われている印象を受けた。ICT機器の使いやすさや動画使用の教育効果、検討課題などは、先生たちの利用が進むにつれて分かってくると思う。ICT教育の推進が先生方にとって負担ではなく、時間軽減となり、かつ、児童生徒にとっては教育効果を高めるものとなるように、各小中学校で活用していってもらえればと思う。

審議結果 【報告のとおり承認】

○日程第5 議案第17号 平成29年度生駒市教育委員会の活動の点検及び評価について

- ・平成29年度生駒市教育委員会の活動の点検及び評価について、峯島教育振興部長から説明

<参照:議案書p7、別冊1、資料2、追加資料1>

(質疑)

中田教育長:まず前回会議でのご意見について、事務局で整理の上、対応部分を記載しているが、何かご意見等はあるか。

無いようなので、前回会議以後にご意見を頂いたものについて、順次対応部分の表現を決定していきたいと思う。まず、2ページ「教育委員会の会議運営等」について、ご意見をいただいた山本委員から説明をお願いしたい。

山本委員:教育委員会及び教育委員自身の活動について、研修や行事への参加など

が記載されている箇所であることから、「会議運営等」ではなく、「活動状況」にする方がいいのではないかと思います。

中田教育長：私も「活動状況」の方が良いと思うので、ご意見どおり変更することとする。次に、評価基準の見直しについて、再度山本委員からご説明をお願いしたい。

山本委員：前回会議でも同様の内容を発言したが、赤字で変更いただいているので、このとおりで結構かなと思う。

中田教育長：では、事務局の案どおり変更することに決定する。次に、4ページ「教育委員会会議の開催」について、山本委員から続いて説明をお願いします。

山本委員：会議の開催自体は評価対象にすべきではあるが、開催の目標を明確にして、その目標が達成されているかという視点が重要であると思う。規則の改廃等の各案件について、十分な審議をし、滞りなく教育行政を進めることができているかという点を評価すべきであることから、修正内容のような表現を意見提出させていただいた。

中田教育長：他の教育委員からの意見も無いことから、ご意見のとおり変更したいと思う。次に、4ページ「学校訪問、各施設視察、研究発表会・学校行事の参加」について、山本委員と上田委員からご意見をいただいているので、両委員からご説明をお願いしたい。

山本委員：この項目についても、学校訪問の目的を明確にして、目的が達成されているかどうかで評価すべきである。学校訪問の目的は、各学校の実態把握や指導助言、支援であることから、その目的が達成できているのかを表現すべきであると思う。

上田委員：山本委員のご意見と同様で、訪問校ごとに課題を抽出し、改善のためのフィードバックを行ったなど、行動レベルで、より具体的に書いていただきたいという意見である。

峯島部長：このことについて、追加資料1として事務局作成案を配布させていただくので、ご覧いただきたい。

山本委員：意見を反映していただいていると思う。

上田委員：この内容で結構かと思う。

中田教育長：次の項目に進みたいと思うが、全面的に内容を変更している。4ページの「教育委員としての資質・能力の向上」について、ご意見をいただいた山本委員から説明をお願いしたい。

山本委員：行動面では、研修会に参加したなどになるかと思うが、国・近畿・県での研修会に参加することで自ら資質向上に努めているという点を評価すべきであることから、意見を提出させていただいた。

中田教育長：山本委員からのご指摘を反映し、項目の名称・本文を変更しているので、確認をお願いしたい。

山本委員：参加した研修について、文科省主催のものも追加していただきたい。

中田教育長：ご意見のとおり、全国レベルのものも追加することとする。

飯島委員：修正版の「その他市教育委員会主催事業等への参加」について、参加・資質向上したことを評価しているが、次項目と重複することから、評価の内容を「市主催の行事に参加することで、市事業の概要を把握できた」といった趣旨の表現にしていれば、「教育委員としての資質・能力の向上」との違いが明確になると思う。

中田教育長：続いて、4ページ「各種教育機関との連携」について、山本委員から説明をお願いしたい。

山本委員：教育委員会も、学校と同様に関係機関との連携が必要であり、そのことに関する項目が必要ではないかという提案である。事務局案では、附属機関と関係機関を一つにまとめていただいているようだが、この点は検討する必要があると思う。

中田教育長：機関・団体のまとめ方についてだが、教育委員会も機関であることから、機関同士でまとめるということで、原案のとおりでいかがか。ご異議も無いようなので、原案のとおりでさせていただく。続いて、6ページ「子育ての孤立化の防止と地域で支え合う子育ての推進」について、寺田委員からご説明をお願いしたい。

寺田委員：評価において、「8%の伸び」があるのに、どうしてB評価なのかということで意見を提出させていただいたが、本日の資料で追加説明が入り、納得がいった。これで結構である。

中田教育長：次に9ページ、「保幼小中連携事業」について、上田委員と寺田委員からご意見をいただいているので、両委員会からご説明をお願いしたい。

上田委員：報告書全般でも、意見を提出させていただいたが、実施したかどうかではなく、実施して何が決まったのか書いていただきたいということで意見を提出させていただいた。この項目に限ったことではなく、一例として書かせていただいた。次年度以降になると思うが、設定目標をもっと具体的に書くことができれば、評価しやすくなるのではないかと思う。

中田教育長：来年度の課題ということで、事務局も検討をお願いしたい。

寺田委員：全園で実施とあるが、小学校と中学校は実施していないのか、保幼小中連携であれば、小中学校の具体的な事業も必要ではないか。そのことを含めての評価であるべきなので、A評価ではないと思う。

上田指導主事：保幼小連携事業としては、給食交流、図書室の司書からのお話会、一日入学、小学2年生の授業の「まち探検」の受け入れのほか、先生同士の会議などを開催したりしている。しかし、定例的になってきており、継続事業であるということで、深まりという視点から評価すると評価が変わってくる点は否めないと思う。

中田教育長：中学校による連携はないか。

峯島部長：一部中学校において交流があるが、すべての学校が密接に連携しあって

いるとは言えない。評価をBに変更させていただきたいと思う。

中田教育長：保幼小中は範囲が広いので、具体的な取組が見えてこない。次年度以降は、少し項目を検討する必要があると思う。

飯島委員：この事業は年度当初に決定してしまっても変更できないとか、既に外部に公開されていたりするのかな。

峯島部長：予算の概要において、公表させていただいている。

飯島委員：そうであるならば変更できないので、今年度はB評価とすべき。来年度からは保幼小連携、小中連携で項目を分けるか、項目を包括的なものにするのではなく、単年度で評価しやすい取組に変えるなどの検討が必要ではないかと思う。

峯島部長：壺分幼稚園、あいづ壺分保育園、壺分小学校が県の受託事業で2年間指定研究をしているが、一つの具体例であって、包括的な就学前教育の充実を図るといった観点のものではない。保幼が入学前に小学校にアプローチをかけることは多いが、小学校が連携のために何かを進めることは難しい。中学校となると、さらに難しい。来年度からは、具体的に何をしたらと評価できる取組づくりをしていきたい。今年度は予算が幼小中連携事業となっているので、来年度から変更させていただきたい。

中田教育長：本項目について、今年度はB評価とすることとする。続いて10ページ、「幼稚園・保育所教員研修の実施」について、上田委員からご説明をお願いしたい。

上田委員：実施回数ではなく、研修内容と成果で評価していただきたいと思う。設定目標に対して何回実施できたという意味で書いていただくのは結構だが、来年度の目標設定の段階で、研修を通じて何を習得してほしいのかなどを考えていただきたい。具体的に意見のように修正いただきたいということではなく、次年度以降、報告書の方向性として、A評価であっても、PDCAサイクルのAの部分である来年につなげていくということが出来上がればよいということで意見を提出させていただいた。

峯島部長：前回のご指摘も踏まえて、今後も続いていく教員研修において受講者アンケートをしていくことを決め、夏期研修で取組を始めたところである。その結果を踏まえて、事務局がどのような研修をすべきか等を考え、教員育成に取り組みたいと思っている。

上田委員：夏期研修を受けて、新しいことを勉強したで終わるのではなく、秋からの授業にこの研修をどう活かすかということ意識させていくことができれば、研修の評価につながっていくと思う。

イノズ委員：評価と今後の方向性について、どのように分かりやすく見せるかという点で、奈良市教育委員会の点検評価報告書がすごく分かりやすい。実績評価だけでなく、必要性和今後の方向性についても4段階評価をしている。26ページに教員研修が挙げられているが、内容、アンケート結果、

今後の課題、方向性が書かれている。来年度以降の参考にできればと思う。

神澤委員：評価方法について、次年度以降、簡潔なものにするのか詳細なものにするのか、市教委としての姿勢をまず決めておく必要があると思う。100ページ以上となると、概要を付けるなどの配慮も必要となる。また、レイノルズ委員からご紹介いただいたABC評価と数値評価については、どちらで進めるのかを予め議論をしておく必要があるのではないかなと思う。

中田教育長：アンケートなどについては記載することはできるが、現時点で奈良市のような報告書を作成するのは難しいと思う。

レイノルズ委員：分量ではなく、達成度・必要性・方向性を簡潔に示している点を参考にできればと思う。

神澤委員：目標管理は果てしなく出来てしまう。どのような評価をしていくのか、生駒市としての方向性を今後定めておく必要があるとは思ふ。

中田教育長：ABC評価をベースに考えていきたいと思うが、どちらにしても来年度につなげていくことを意識して検証していきたいと思う。次に、11ページの「ICT機器活用モデル事業」、「グローバル時代に対応した英語教育の推進」、12ページの「問題発見力や他者と協働するコミュニケーション能力の育成」について、上田委員から説明をお願いしたい。

上田委員：3点とも、現実に即した今後の具体的な現状・課題を書いてほしいということで意見を提出させていただいた。タブレットが配備されたからいいというのではなく、授業や先生の意識がどう変わったなどの現場での変化を書いてもらいたい。2点目も3点目も同様だが、来年度のアクションにつながるような内容を書くことができればということで意見を提出させていただいたものであって、この内容に修正してもらいたいということではない。

中田教育長：上田委員の意見については、事務局案の修正部分で方向性が示せているかなと思う。最後に、報告書全般について、山本委員と上田委員から説明をお願いしたい。

山本委員：これまでの議論と関係してくると思うが、点検評価報告書の作成について、法で義務付けられているから作成している、アライバイ工作的に作成しているという市町村もある。重要なのは、点検評価を通じて、生駒市の教育をどのように改善していくのかという目的意識を明確にしておくことである。今年度の評価から、PDCAサイクルを活かしていくということで、やはりAを記載しておくべきであると思う。前回会議でも、様々な形で評価を踏まえた課題や方向性を示す欄を作るべきといった意見があった。前回会議の意見を踏まえて、今後の活動方針を示していくために、「評価による課題」という欄を事務局から提示していただいたと

思う。これも一つのステップとして前進したと思う。評価についても、様々な方法がある。評価に労力を使って、改善に活かされてなければ意味がないことから、実効ある評価にしていくことが重要である。

上田委員：来年度に向けて、達成目標を明確にして、評価をしやすくすることが必要であると思う。これによって、評価が適切にできるということと、目標の共有が可能になる。プロセスを大切に、来年に活かすという姿勢で、教育委員会のみならず現場の先生も含めた全員で、同じ目標を持つことができれば、生駒市の教育は前進することができるのではないかなと思う。そういった意味で、この点検評価は意義のあるものになってくる。

中田教育長：来年度の課題ということで、今年度反映しきれない意見もあるが、期限もあることから、今年度のものについては、今回の会議を踏まえて修正し、手続を進めていくこととしたい。次回会議で、点検評価委員からの意見を頂いたものを、再度審議をしたいと思う。

審議結果 【継続審議】

○日程第6 その他

・いこまっ子キャンプの実施状況について、吉川教育指導課長から説明
(質疑) なし

・委員からの連絡、意見

神澤委員：今年度の熱中症の状況について、情報があれば教えていただきたい。

吉川課長：今年度の熱中症による救急搬送は6件。小学校は体育授業中に2件、中学校は部活中に4件となっている。いずれも命に別状はなく、学校において、迅速・適切な処置ができておりと病院から報告を受けている。また、7月21日から県総合体育大会近畿大会予選が行われているが、市内中学生が熱中症になったといった報告は受けてない。

中田教育長：これに関連して、運動会の日程についても報告をお願いしたい。

吉川課長：熱中症対策の取組の一つとして、保幼小中の運動会の日程を調整するという項目があったが、来年度から10月第1週の土曜日に中学校、第2週の土曜日に市立保育園・幼稚園、第3週の土曜日に小学校で統一して実施することが決まった。

中田教育長：他にありませんか。

浦林委員：先日、壺分小学校に茶道体験事業の見学に行かせていただいた。和室がない教室では、テーブルと椅子を使い、茶道協会の先生方も本格的な茶道を披露しておられた。また、季節に合わせてガラスの器を使っていたりして、大変良かったと思う。

中田教育長：茶道体験事業は初年度であることから、事務局において、来年に向けて課題等はあるか。

梅谷補佐：現在9校で実施して、茶道をする環境が無いなど、難しい部分もあったが、喜んでいただける内容を提供することができたと思う。来年度以降も引き続き、場所や時期などを変更していきながら実施していきたいと思う。

○閉会宣告

午前10時50分 閉会